

## 1994年肺癌登録結果

飯富病院 外科	長 田 忠 孝
山梨医科大学 第2内科	小 沢 克 良
市立甲府病院 内科	川 口 哲 男
山梨厚生病院 外科	橋 本 良 一
山梨県立中央病院 外科	千 葉 成 宏
韮崎市立病院 外科	松 川 哲 之 助

山梨肺癌研究会の会員による、1994年の登録結果につき報告します。過去3回の仮登録、本登録に続き4回目の登録となります。

県内13病院と2診療所、及び富士宮市の国立療養所富士病院よりの合計16施設より登録がありました。

登録総数は180で、重複登録、初診年度が異なるものを除き、有効登録数は161でした。この数は過去の本登録に比し、最も少数でしたが、研究会の発表後に数病院よりかなりの追加登録があり、ほぼ過去の登録数に合致する程度にはなる模様です。この時点で、改めて集計し次回の研究会に報告します。なお、'96年3月末に今回の登録結果を例年どうり県内外の諸機関に報告する予定ですが、この時にも追加分を含めて結果を出す予定です。

## 1. 性別、年齢構成、喫煙歴 [表-1]

60歳以上が132人、82%で、男女比は男が112人、女は49人で2.3:1だった。男の88%は喫煙歴があり、女の81%は非喫煙者だった。

## 2. 喫煙と組織型 [表-2]

例年と同様、腺癌では喫煙歴の有無とは関係ないようだったが、腺癌の非喫煙者の38人中33人は女性だった。また、腺癌の喫煙者の37人は男性だった。

扁平上皮癌と小細胞癌は喫煙者に多かった。

なお、Adは腺癌、Sqは扁平上皮癌、Smは小細胞癌、Laは大細胞癌を示し、その他には腺癌と扁平上皮癌の合併例、腺癌扁平上皮癌例、腺様嚢胞癌の各1例が含まれます。

また、受診動機と喫煙歴をみると、今回も、検診発見例では喫煙者が少ない傾向にあった。

## 3. 組織型と発生部位 [表-3]

原発部位では肺門が34例、21%、肺野が112例、70%だった。腺癌の大部分は肺野発生だった。肺門発生の扁平上皮癌は15例、9%とやや低率だった。全体の約半数が腺癌だった。腺癌発生の増加が報告されていますが、今後の登録結果が注目されます。

4. 発生部位と病期 [表-4]

I期の37例中31例は肺野癌だった。I期の肺門部癌の6例中4例は扁平上皮癌だったが喀痰検診発見例はなかった。

なお病期は病理病期があるものはそれに従い、ないものは臨床病期をもちいました。

5. 組織型と病期 [表-5]

I期の小細胞癌は高度な肺気腫を合併した肺野癌。その他のI期例は肺門型の腺様嚢胞癌だった。

6. 受診動機と病期 [表-6]

検診発見と他疾患治療中にI期例が多く、自覚症状群では進行癌が多かった。

8. 外科療法 [表-7]

全体の67例、42%に、腺癌の53%に、扁平上皮癌の48%に、小細胞癌の9%に、またI期例の97%に、II期例の63%に外科療法がなされていた。III期とVI期例の大部分は手術所見により進行した病期に変更された例だった。絶対的治癒切除術は24例で、67例の36%で、全登録例の15%だった。

9. 化学療法 [表-8]

全体の79例、49%になんらかの化学療法がなされていた。

なお、外は外科療法、化は化学療法、放は放射線療法、免は免疫療法を示しています。

化学療法が評価可能例は79例中41例だった。CR+PRは10例で24%だった。

10. 放射線療法は20例に実施されていた。うち5例は転移巣の治療だった。PRが2例、MRとPDが各1例で、他は評価不能だった。

11. 無治療例、補助療法のための例は31例あった。

12. 登録時死亡例 [表-9]

161人中70人、43%が登録時に死亡していた。特に小細胞癌では68%が1年以内に死亡していた。病期が進むに従い死亡率は増加している。

本登録も3年目に当たり腺癌が増加する兆しはあるものの、登録時ではほぼ同様な傾向にあるといえます。やはり前回までに課題とした、①登録例のFollow up、②死亡診断書からの情報収集の2点をどうしても取り入れていく必要があると思われます。なお3点目の課題のコンピューター化は厚生病院の橋本、虎走両先生のご努力で実現しつつあります。また、当会の癌登録に触発された形で、他の癌や全癌の登録事業の必要性が論じられ始めたとの情報もあり、我々もさきがけとしての役割を果たすべく、今後の登録事業を発展的に継続していきたいと思っています。会員諸氏のさらなるご協力をお願いいたします。

〔表-1〕 年齢構成と喫煙歴

	喫 煙 歴						
	( + )		( - )		不明		
	男	女	男	女	男	女	
8 0 ～	1 3	2	1	6			2 2
7 5 ～ 7 9	1 0	2	4	6			2 2
7 0 ～ 7 4	2 3	1	1	2			2 7
6 5 ～ 6 9	2 7	3	3	4	1	1	3 9
6 0 ～ 6 4	1 2			9	1		2 2
5 5 ～ 5 9	5		1	6			1 2
5 0 ～ 5 4	4	1		2			7
4 5 ～ 4 9	3		1	2			6
4 0 ～ 4 4	1			2			3
～ 3 9	1						1
	9 9	9	1 1	3 9	2	1	1 6 1

男 112 女 49 男女比 2.3:1  
 男の88%は喫煙者  
 女の81%は非喫煙者

〔表-2〕 喫煙と組織型

	喫 煙 歴			
	( + )	( - )	不明	
Sq	34	7	1	47
Ad	40	38	1	79
Sm	19	2	1	22
La	3			3
その他	3			3
不明	9	3		12
	108	50	3	161

〔表-3〕 組織型と発生部位

	肺門	肺野	不明	
Ad	8	68 42%	3	79 49%
Sq	15 9%	25 16%	2	42 26%
Sm	5	14	3	22 14%
La	1	1	1	3
その他	3			3
不明	2	4	6	12
	34 21%	112 70%	15	161

平成8年4月1日

〔表-4〕 発生部位と病期

	I	II	ⅢA	ⅢB	IV	不明	
肺野	31	6	20	17	37	1	112
肺門	6	2	3	8	15		34
不明			1	2	7	5	15
	37	8	24	27	59	6	161

〔表-5〕 組織型と病期

	I	II	ⅢA	ⅢB	IV	不明	
Ad	23	1	11	16	27	1	79
Sq	12	6	6	7	10	1	42
Sm	1	1	5	2	13		22
La			1		2		3
その他	1			1	1		3
不明			1	1	6	4	12
	37	8	24	27	59	6	161

〔表-6〕 受診動機と病期

	I	II	ⅢA	ⅢB	IV	不明	
自覚症状	6	2	10	19	42	3	82
検診	15	3	11	3	8		40
他疾患治療中	16	3	3	5	9	2	38
不明						1	1
	37	8	24	27	59	6	161

〔表-7〕 外科療法

	I	II	ⅢA	ⅢB	IV	不明	
Ad	22/23	1/1	9/11	6/16	4/27	0/1	42/79 53%
Sq	12/12	4/6	2/6	0/6	2/10	0/1	20/42 48%
Sm	1/1	0/1	1/5	0/2	0/13		2/22 9%
La			1/1		0/2		1/3
その他	1/1			1/1	0/1		2/3
不明			0/1	0/1	0/6	0/4	0/12
	36/37 97%	5/8 63%	13/24 54%	7/27 26%	6/59 10%		67/161 42%

〔表-8〕 化 学 療 法

	I 期	II 期	III A 期	III B 期	IV 期	
化		3	4	8	24	39
外+化	9	2	5	3	1	20
外+化+放			3		1	4
外+化+免				2	1	3
化+放			1	3	5	9
化+免			1		2	3
化+放+免			1			1
	9	5	15	16	34	79/161 49%

〔表-9〕 登 録 時 死 亡 例

	I	II	III A	III B	IV	不明	
A d	3		4	6	16		29/79 37%
S q		3	2	3	6		14/42 33%
S m	1		2	1	11		15/22 68%
L a					2		2/3 67%
その他			1	1			2/3 67%
不明			1	1	4	2	8/12 67%
	4/37 11%	3/8 38%	10/24 42%	11/27 41%	40/59 68%	2/6 33%	70/161 43%